

水稲



# 令和4年産早期水稲について



水稲

吉田 義文  
指導販売課  
0969-22-1105

いよいよ令和4年産の早期水稲も始まります。異常気象を受けにくい稲を作るには、まず健康な稲を作ること、健康な稲を作るには適正な育苗管理と適正な水管理を行うこと、そして土作りです。

また、昔から「苗半作」と言われています。早期水稲の場合、気温が低い厳しい条件下での田植えですので、苗の良否が初期生育に大きく影響します。品質の良い米づくりのために、健苗の育成に努めましょう。

本田の準備については堆肥や土壌改良資材の投入と、作土を15cm以上確保するよう心掛けて下さい。

### 育苗施設の点検・準備

約1ヶ月間の育苗期間となります。春一番等、突風被害が毎年見受けられますのでハウス資材の点検と修繕は早いうちに行いましょう。

### 健苗の育成

種子は充実した、健全なものを使いましょう。そのためには

必ず種子選（比重選）を行って下さい。（比重 水10リットルに塩2kg）

病害虫防除のために種子消毒（エコホープDJ200倍液に24時間浸漬）と育苗箱の洗浄を行いましょう。

早期水稲の育苗日数は25日程度ですので、田植え日から逆算して播種日を決定しましょう。2葉苗～2.5葉苗の場合の播種量は乾籾で150g（催芽籾では180g）が基準となります。

播種に最も適しているのは、ハト胸状態の時です。そのためには十分に浸種を行って下さい。

また、水の入れ替えと、1日1回は攪拌して水温が均一になるようにしましょう。

### 水田の準備（※一発肥料の施肥量について）

本年より、特別栽培米用の一発肥料（元肥）を追加致しました。散布量は10a当50kgです。尚、注意点と致しまして、田植同時の側条施肥を実施の生産者の方は、1～2割の減量にて散布をお願いします。

本肥料を利用の際は、活着肥料の使用は控えて下さい。

野菜



# シシトウ・甘長とうがらし栽培



野菜

宮内 勝幸  
上島営農指導センター  
080-2751-6373

### 露地栽培

月	4	5	6	7	8	9	10	11
シシトウ	▲	■	■	■	■	■	■	■
甘長とうがらし	▲	■	■	■	■	■	■	■

定植：▲ 収穫：■

### 定植

1. 植穴は、苗鉢よりもやや大きめにし、50～70cm間隔であける。
2. 定植苗は、第一果房が開花する3～4日前の若苗を定植する。
3. 定植時には、アブラムシ・スリップス対策としてスタークル粒剤を1株当たり1～2g植穴処理する。
4. 定植を行う際は、鉢土の上2cm位が見える程度浅植える。  
※ 植え付けが深いと白絹病や疫病の原因となる。
5. 定植後、初期生育促進の為に、株元に液肥灌水する。
6. 定植後、直ちに支柱に誘引する。

### 定植後の管理

1. 定植後7～10日頃までは、鉢土が乾燥しないように株元に灌水し、根の活着を促す。
2. 活着後は、徐々に灌水量を減らし、根を深く張らせる。
3. 第一分枝以下の果実・脇芽は、早めに取り除く。
4. 定植後20日前後までに、本支柱及びネット張り(2m間隔)を行う。

### 整枝・誘引

1. 整枝は、出来るだけ中心に光線が入るように摘芯する。
2. ネット張りは、樹の生育に合わせて行う。高くなった場合は、2段目を張る。

### 施肥量

シシトウ 10a当り/kg

必要成分量	N	P	K
元肥	30	25	30
追肥	10	10	10
合計	40	35	40

甘長とうがらし 10a当り/kg

必要成分量	N	P	K
元肥	15	20	15
追肥	15	15	15
合計	30	35	30

詳しいことは各地域の担当者、又は栽培講習会等でお聞き下さい。



## 2月・3月の柑橘園管理

**果樹**  
山下 俊二  
下島営農指導センター  
080-1729-1632

### 1. 土づくり

良い作物作りはまず健全な土づくりから始まります。下記の表は10a当たりの目安量となりますので、表の基準を参考に投入してください。

時 期	資材名	10a当たり	備 考
2~3月 (収穫後)	堆肥	2,000 kg	完熟物
	密土	4,000 kg	3cm以内
	ヤシガラ	20 袋以上	2キュービック (120ℓ/ 11kg)
	土の恵み	12 袋以上	堆肥・ヤシガラの 代わり

### 2. 葉面散布

まずは樹勢を回復し、その後花芽分化促進を行いましょ。

目的	薬 剤 名	希釈倍数	備 考
樹勢回復	尿素 又は アミノジューシーN14又は 神協スピリッツ	500 倍	収穫後3回程度 集中散布
花芽分化 促進	ファームント 又は ジューシーエース	500 倍	樹勢回復後3回程度 散布



### 3. 施 肥

栽培タイプ	資材名	対象品種	施肥時期	10a 当たり
全	炭酸苦土石灰	全品種	2月上旬	10 袋
超省力化 (年1回)	新有機中晩柑一発	河内晩柑・清見・ 甘夏 パール柑 デコポン	2月上旬	10 袋
通 常	熊本果樹 74 又は ひのくに果樹 933 又は 果樹専用スペシャル	極早生温州	3月上旬	4袋
		ボンカン	3月上旬	5袋
	熊本デコポン 833 (8-3-3-2)	清見・河内晩柑 甘夏・パール柑	3月上旬	4袋
		デコポン	3月上旬	3袋
省 力	新アグリロング 28号 (12-8-8-2)	河内晩柑・清見 甘夏・パール柑 デコポン	3月上旬	5袋 5袋

### 4. 病虫害防除

対象病害虫	品 種	農薬名	希釈倍数	備 考
かいよう病	温 州	IC ボルドー 66D	60 倍	3月中旬 (発芽前)
	中晩柑			3月中~下旬 (発芽前)
ミカンハダニ	中晩柑	ハーベストオイル	80 倍	3月中~下旬 (発芽前)

※かいよう病防除はムッシュボルドー (DF) 500倍も使用可。  
※温州ミカンで12月にハーベストオイルを散布していない園では、発芽前に80倍で散布。



## 子牛の異常産対策について

**畜産**  
園田 遼海  
下島営農指導センター  
080-1795-9380

現在も子牛の相場は高値傾向で推移しています。一頭でも失えばその損失も大きなものになるため、できる限り死産や流産などをなくすことが重要となります。そのため当JA管内では、毎年4月、5月に異常産の予防接種を実施しています。

### ・異常産とは

アカバネ病、アイノウイルス感染症などの、ヌカカを主な感染媒体とする病気により、分娩時に体型異常産子による難産などが発生すること。

	ウイルス流行時期	異常産発生時期	主な媒介昆虫
アカバネ病	夏~秋	夏~翌年春	ヌカカ
アイノウイルス 感染症	夏~秋	夏~翌年春	ヌカカ
チュウザン病	夏~秋	秋~翌年春	ヌカカ

### ・異常産の症状について

#### 「アカバネ病」

妊娠牛が感染すると約30%の発病率で異常産を起こす。家畜伝染病予防法で届出伝染病に規定。

**成牛**→症状はほとんどないが、体型異常産子による難産

**子牛 (胎内感染)** →四肢の湾曲や脊柱湾曲あるいは斜頸などの体型異常、頭部の変形、起立不能、自力哺乳の弱い虚弱

**子牛 (生後感染)** →運動失調、起立困難・不能、後肢麻痺、異常興奮等の神経症状

**妊娠牛**→流産、死産、早産および先天性の奇形を伴った異常子牛の分娩

#### 「アイノウイルス感染症」

流行の北限は近畿地方。妊娠牛が感染すると5%未満の発症率で異常産を起こす。家畜伝染病予防法で届出伝染病に規定。

**成牛**→ほとんど無症状、体型異常産子による難産

**子牛**→起立不能、自力哺乳の弱い虚弱、四肢の湾曲、特に脊柱湾曲あるいは斜頸を多く示し、症状からアカバネ病と区別するのは難しい

**妊娠牛**→流産、死産、早産および先天性の奇形を伴った異常子牛の分娩

#### 「チュウザン病」

主に九州で発生。肉用種 (黒毛和種) で多発する。家畜伝染病予防法で届出伝染病に規定。

**成牛**→ほとんど無症状

**子牛**→起立不能、自力哺乳不能、神経症状 (間欠的なてんかん様発作、四肢の屈折や回転、後弓反張、旋回運動など) を示す

**妊娠牛**→虚弱または神経症状を伴った異常子牛の分娩。流産、死産、および早産は少なく、異常子牛の体型異常は見られない

#### ・まとめ

異常産や死産を完全になくすことは難しいですが、毎年4月、5月に実施している親牛の異常産予防注射を接種することで、これらの病気を予防することが可能です。より良い経営を行うため、異常産などをなくして良い子牛の生産に努めましょう。